

解答はすべて解答用紙に記入し提出して下さい。

第1回 簿記定期試験

問題用紙

3 級

(制限時間 2時間)

簿記の教室 メイプル

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現	金	普	通	預	金	当	座	預	金	受	取	手	形						
売	掛	金	前	払	金	立	替	金		仮	払	消	費	税					
仮	払	金	受	取	商	品	券	備	品	支	払	手	形						
買	掛	金	前	受	金	仮	受	消	費	税	備	品	減	価	償	却	累	計	額
資	本	金	売		上	固	定	資	産	売	却	益	仕	入					
発	送	費	旅	費	交	通	費	租	税	公	課	固	定	資	産	売	却	損	

1. 以前注文していた商品¥480,000を受け取り、注文したときに手付金として支払っていた¥400,000を差し引いた金額を掛けとした。また、当社負担の運賃¥20,000を現金で支払った。
2. 従業員が出張から帰社し、旅費の精算を行ったところ、あらかじめ概算額で仮払いしていた¥70,000では足りず、不足額¥30,000を従業員が立替払いしていた。この不足額については、精算時に従業員へ現金で支払った。
3. 当期首に不用になった備品(取得原価¥500,000、減価償却累計額¥400,000、間接法で記帳)を¥60,000で売却し、売却代金は現金で受け取った。
4. 1株当たり¥60,000で100株の株式を発行し、合計¥6,000,000の払込みを受けて株式会社を設立した。払込金はすべて普通預金口座に預け入れられた。
5. 商品¥30,000を売り上げ、消費税¥3,000を含めた合計金額のうち、¥13,000は他社振出しの小切手で受け取り、残額は共通商品券を受け取った。なお、消費税は税抜方式で記帳する。

第2問 (10点)

次の資料にもとづいて、下記の問いに答えなさい。

[資料] ×2年5月中の取引

- 3日 先月に東京商会株式会社から掛けで仕入れた商品¥45,000を品違いのため返品し、同社に対する掛代金から差し引いた。なお、返品の際に生じる運賃¥3,000は先方負担であるが、当社において現金で立替払いした。
- 8日 埼玉物産株式会社から商品¥120,000を仕入れ、代金は約束手形を振り出して支払った。なお、引取運賃¥4,000は現金で支払った。
- 14日 神奈川商事株式会社商品¥180,000を売り上げ、代金のうち¥70,000は注文時に同社から受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、同社負担の発送費¥5,000は現金で立て替え払いしたので、この分は掛代金に含めることとした。
- 20日 土地200㎡を1㎡当たり¥25,000で取得し、代金は翌月末に支払うこととした。なお、整地費用¥320,000は小切手を振り出して支払った。
- 22日 XYZ株式会社に対する受取手形(前期販売分)¥220,000が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は¥150,000である。

問1 ×2年5月中の取引が、答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるか答えなさい。なお、解答にあたっては、各取引が記入されるすべての補助簿の欄に○印をつけること。

問2 ×2年11月30日に、×2年5月20日に取得した土地すべてを1㎡当たり¥30,000で売却した。この売却取引から生じた固定資産売却損益の金額を答えなさい。なお、答案用紙の()内の損か益かのいずれかに○印をつけること。

問3 ×3年4月30日に、×2年5月22日に貸倒れ処理した受取手形について、全額を現金で回収することができた。その際の仕訳を行いなさい。なお、当社の決算日は毎年3月31日である。

第3問 (30点)

次の〔資料〕にもとづいて、答案用紙の×5年5月31日の合計残高試算表を作成しなさい。

〔資料1〕×5年4月末の合計試算表

合 計 試 算 表		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
152,200	現 金	3,800
480,000	普 通 預 金	
5,180,000	当 座 預 金	1,264,000
2,250,000	売 掛 金	984,000
1,725,000	繰 越 商 品	
420,000	従 業 員 貸 付 金	70,000
1,500,000	備 品	
450,000	買 掛 金	1,670,000
45,000	所 得 税 預 り 金	90,000
	備品減価償却累計額	600,000
	資 本 金	7,000,000
	繰越利益剰余金	428,200
	売 上	1,983,000
1,155,000	仕 入	7,000
500,000	給 料	
5,000	支 払 手 数 料	
7,800	水 道 光 熱 費	
10,000	通 信 費	
220,000	支 払 家 賃	
14,100,000		14,100,000

〔資料2〕×5年5月中の取引

- 1日 商品¥480,000を売り上げ、代金は掛けとした。
- 3日 商品¥360,000を仕入れ、代金は掛けとした。
- 6日 商品¥290,000を売り上げ、代金は掛けとした。
- 7日 仮店舗の出店のための支払手数料¥40,000および広告宣伝費¥90,000を普通預金口座から振り込んだ。
- 9日 所得税の源泉徴収額¥45,000を当座預金口座から振り込んだ。
- 12日 商品¥640,000を売り上げ、代金は掛けとした。
- 13日 仮店舗のつり銭を用意するため、銀行で現金を両替し、手数料として¥400を現金で支払った。
- 14日 仮店舗で商品¥380,000を売り上げ、代金は現金で受け取った。
- 15日 仮店舗の現金を集計したところ、帳簿上は¥419,000であったが実際には¥420,000であったため、差額を現金過不足として処理した。
- 16日 現金¥420,000を普通預金口座へ預け入れた。
- 17日 商品¥350,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- 18日 普通預金の利息¥80が普通預金口座へ振り込まれた。
- 21日 得意先から掛代金¥1,266,000が当座預金口座へ振り込まれた。
- 22日 仕入先へ掛代金¥1,140,000を当座預金口座から振り込んだ。
- 25日 従業員の給料¥520,000から所得税の源泉徴収額¥49,000および従業員貸付金の元本返済額¥70,000を差し引いた残額を当座預金口座から振り込んだ。
- 27日 当座預金口座から¥1,500,000を定期預金口座へ預け入れた。
- 28日 家賃¥220,000が当座預金口座から引き落とされた。
- 29日 水道光熱費¥8,000および通信費¥15,000が当座預金口座から引き落とされた。

第4問 (10点)

次の各取引の伝票記入について、空欄①から⑤にあてはまる適切な語句または金額を答えなさい。なお、当社では3伝票制を採用しており、商品売買取引の処理は3分法により行っている。

(1) 商品を¥100,000で仕入れ、代金のうち¥80,000を現金で支払い、残額は掛けとした。

() 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
買 掛 金	()	(①)	()	()	(②)

(2) 商品を¥240,000で売り上げ、代金は掛けとした。また、顧客負担の送料¥10,000を現金で支払い、「(③)伝票」で掛代金に含める記録を行った。

(③) 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(④)	()	()	()	()	(⑤)

第5問 (30点)

次の〔決算整理事項等〕にもとづいて、間に答えなさい。当期は×3年4月1日から×4年3月31日までの1年間である。

〔決算整理事項等〕

1. 売掛金¥250,000が普通預金口座に振り込まれていたが、この記帳がまだ行われていない。
2. 仮払金は全額、2月25日に支払った備品購入に係るものである。この備品は3月1日に納品され、同日から使用しているが、この記帳がまだ行われていない。
3. 現金過不足の原因を調査したところ、旅費交通費¥5,000の記帳漏れが判明したが、残額は原因不明のため雑損または雑益で処理する。
4. 当座預金勘定の貸方残高全額を当座借越勘定に振り替える。なお、当社は取引銀行との間に¥3,000,000を借越限度額とする当座借越契約を締結している。
5. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法で設定する。
6. 期末商品棚卸高は¥825,000である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
7. 建物および備品について、以下の要領で定額法による減価償却を行う。3月1日から使用している備品(上記2.参照)についても同様に減価償却を行うが、減価償却費は月割計算する。
 建物 : 残存価額ゼロ 耐用年数 40年
 備品 : 残存価額ゼロ 耐用年数 6年
8. 借入金のうち¥2,000,000は、期間1年間、利率年3%、利息は元本返済時に1年分を支払う条件で、当期の11月1日に借り入れたものである。したがって、当期にすでに発生している利息を月割で計上する。
9. 保険料の前払分¥50,000を計上する。

問1 答案用紙の精算表を完成しなさい。

問2 決算整理後の備品の帳簿価額を答えなさい。